



7 月末現在、ハダニ類の小発生状態ですが、一部でシンクイムシ類の果実食入被害が目立っています。盛夏期は、ハダニ類を含めた主要害虫の発生密度が最も高まり、生産量に影響を及ぼす被害が心配されます。引き続き、一定の間隔で薬剤散布を進めてください。

◆ 西洋梨の定期防除（他品目への飛散に十分注意してください）

🌸 8 月中旬の薬剤散布（前回より 20 日後）

散布時期	8 月 10 日～20 日	◆ 散布日：8 月 日
散布薬剤	水 1 0 0 0 ℓ 当り 展着剤 1 0 mℓ キノンドーフロアブル 1 0 0 mℓ （3 日前、9 回） * 注意事項③参照 ④ イカズチWDG 6 6 g （前日、3 回） * 注意事項④参照	◆ 散布量： リットル
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、（ハダニ類）	
散布量	10 アール当り：600 ℓ以上 * 注意事項	
注意事項及び ハダニ類対策	① オーロラ等の最終防除。 ② ハダニ類の発生園は、コロマイト乳剤の 1000 倍（前日、1 回）を加用する。 ③ キノンドーフロアブルに代えてオキシラン水和剤 500 倍（3 日前、9 回）でもよい。有機銅成分を含む薬剤（オキシラン水和剤やキノンドーフロアブル等）の使用回数は合計で 9 回以内です。尚、キノンドーフロアブルを使用する際は、容器の口を下に向けて横に回しながら上下に振り、容器内でよく溶かしてから SS 等のタンクへ投入してください。 ④ イカズチ WDG は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。 ⑤ 葉やけ防止のため、高温時の散布はしない。また、降雨が心配される場合は散布を見合わせる。葉やけの起きやすい条件、①薬剤散布直後の降雨、②急激な高温、乾燥とその後の多雨等です。 ⑥ 薬液が樹の隅々まで到達するように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂状態の場合は、薬剤散布前に徒長枝処理を行う。	

（参考）次回（9 月上旬）薬剤散布予定：9／1～10 頃（前回より 20 日後）

🌸 ナシ類の 8 月の重点管理作業

- 西洋梨の腐らん病対策（多発傾向です！ご注意ください！）
病斑を見つけ次第、削り取り処理や切除を行い、傷口にトップジンMペースト等を塗布する。
- 夏季誘引（この時期に積極的な実施を！）
次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために積極的に実施する。主枝候補を誘引する場合は、**南水・オーロラ等は 45 度、ラ・フランスは 30 度**を目安に誘引する。また、繁茂状態の園では、徒長枝を適度に切除し、園全体に光が入るようにする。
- 土壌水分管理（5 日以上降雨がない場合はかん水の実施を！）
極端な土壌の乾燥は果実肥大や果実品質に大きく影響します。盛夏期に 5 日以上降雨が無い場合は、1 回のかん水量を 20～35 mmを目安に定期的に実施する。また、土壌乾燥防止のため、樹冠下に敷きワラ等のマルチ等を行ってください。
- 雑草管理（草丈の伸長が旺盛です。幹廻りを中心にはやめに処理してください。）
バスタ液剤を使用する。（水 100ℓ にバスタ液剤 500mℓ 混用が目安）

◆ 和梨の定期散布情報は裏面をご覧ください。

◆ **和梨**の定期防除（他品目への飛散に十分注意してください）

【有袋・無袋】8月上旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期	8月5日～10日	◆ 散布日：8月 日
散布薬剤	水 100ℓ	◆ 散布量： ℓ
	展着剤 20ml	
	コロマイト乳剤 100ml（前日、1回）	
	キノンドーフロアブル 100ml（3日前、9回）＊注意事項②	
	劇 オリオン水和剤40 100g（3日前、2回）＊注意事項④	
対象病虫害	黒斑病、輪紋病、 ハダニ類 、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類	
散布量	10アール当たり：450ℓ以上散布	
注意事項及び ハダニ類対策	① 収穫前散布規制のため、早生種の愛甘水等には散布しない。 ② キノンドーフロアブルを使用する際は、容器の口を下に向けて横に回しながら上下に振り、容器内でよく溶かしてからSS等のタンクへ投入する。 ③ オリオン水和剤40は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。 ④ シンクイムシ類・アブラムシ類の被害が目立つ場合は、オリオン水和剤40に代えてバリアード顆粒水和剤4,000倍（前日、3回）を加用する。 ⑤ 薬液が樹の隅々まで到達するように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂状態の場合は、薬剤散布前に徒長枝処理を行う。	

（参考）有袋・無袋8月下旬の 薬剤散布予定：8/20～25頃（前回より15日後）

（注目）石梨果の除去について

曇天後の強日照により、無袋栽培を中心に日焼け果が多発しています。特に着果位置が上向き果実に多く見られます。この時点で日焼け程度がひどい果実（通称：石梨）は、成熟期に入っても、果肉が硬く、渋みが強いため、出荷用には不向きです。主力の南水・あきづきの収穫まで1ヵ月以上あります。今のうちに石梨果の除去を徹底してください。